

富士市中小企業景況調査結果

令和6年度 第1四半期【令和6年4月～6月】

令和6年7月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、202事業所(回収率66.3%)を対象に、「令和6年4月～6月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和6年1月～3月 今期…令和6年4月～6月 来期…令和6年7月～9月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲8.9	→	▲9.1 (▲8.4)	→	▲7.6
売上	6.6	↘	1.4 (13.9)	→	6.1
採算	▲16.3	→	▲12.8 (▲14.6)	→	▲14.3

今期調査では、全産業合計の業況DIが-0.2ポイントの減少、売上DI-5.2ポイントの減少、採算DI+3.5ポイントの増加となった。来期の予測については、業況・売上・採算DIいずれも横ばいの予想となった。業種別の来期業況DIは、製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業は横ばい、サービス業は下降を予想。売上DIは、卸売業・小売業・サービス業は上昇、建設業は横ばい、製造業は下降を予想。採算DIは、卸売業・小売業は上昇、建設業は横ばい、製造業・サービス業は下降を予想。

全体を通して、「販売価格を上げるものの物価高騰による影響を全て補えていない」「売価の値上げにより売上高は増えたが、売上点数や利益は減少している」という声が多かった。この他に物流2024年問題、人手不足や定額減税への対応に関する声が目立った。

経営上の問題点では、「商品、原材料仕入れ価格の上昇」が小売業を除く4業種で1位となった。小売業では「設備老朽化」が1位となった。この他に「人件費高騰」も上位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業・建設業は上昇、サービス業は横ばい、卸売業・小売業は下降。

来期予測は、製造業・卸売業・小売業は上昇、建設業は横ばい、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲22.5	↗	▲13.1 (▲34.2)	↗	▲7.9
建設業	▲14.8	↗	▲4.2 (0.0)	→	▲8.3
卸売業	▲10.6	↘	▲27.3 (▲10.5)	↗	▲8.7
小売業	▲6.3	↘	▲20.0 (0.0)	↗	▲15.0
サービス業	12.5	→	14.3 (14.3)	↘	0.0
全産業	▲8.9	→	▲9.1 (▲8.4)	→	▲7.6

〔売上高のDI〕 建設業は上昇、製造業は横ばい、卸売業・小売業・サービス業は下降。

来期予測は、卸売業・小売業・サービス業は上昇、建設業は横ばい、製造業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	0.0	→	2.6 (13.2)	↘	▲7.9
建設業	▲3.7	↗	8.3 (14.8)	→	4.2
卸売業	10.0	↘	▲17.4 (15.8)	↗	9.1
小売業	0.0	↘	▲15.0 (17.7)	↗	0.0
サービス業	25.8	↘	20.7 (10.3)	↗	27.6
全産業	6.6	↘	1.4 (13.9)	→	6.1

〔採算のDI〕 製造業・建設業は上昇、小売業は横ばい、卸売業・サービス業は下降。

来期予測は、卸売業・小売業は上昇、建設業は横ばい、製造業・サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲25.0	↗	▲7.9 (▲26.3)	↘	▲13.1
建設業	▲29.6	↗	▲16.7 (▲10.7)	→	▲20.9
卸売業	▲20.0	↘	▲30.4 (▲21.1)	↗	▲21.7
小売業	▲29.4	→	▲25.0 (▲11.8)	↗	▲10.0
サービス業	16.1	↘	7.1 (0.0)	↘	▲7.1
全産業	▲16.3	→	▲12.8 (▲14.6)	→	▲14.3

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…「価格改定による販売単価の上昇により売上高は前年同期を上回ったものの、需要の減退により販売数量は前年同期を下回った」「原料となる古紙不足と価格上昇に悩む」「原材料価格の上昇が続くのは心配だが、それよりも物流の2024年問題により運送会社への依頼が難しくなっている事が課題である」「販売需要はあるが、生産する為の人員確保が課題である」「家庭紙はインバウンド需要が堅調であり、しばらく在庫が不足気味。PPC用紙（コピー用紙）はペーパーレスによる需要減に変わりはないが、その減少傾向は底を打った模様」「物価高を背景に梱包資材の需要は鈍い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「需要の回復が見込めない状況下で、原燃料価格の上昇が予想され、今後も厳しい状況が続くと思われる」「コスト削減と環境配慮の両立が求められる」「物流の2024年問題により、運送会社の確保が難しい状況が今後も続く見込みである。所得税、住民税の定額減税により事務コストも上昇している」「岳南排水路の停止期間前に在庫を増やしておきたい」「円安による原材料の高騰が続いている上、物流費、人件費の上昇により減益の見込み」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「長期にわたる構造不況のため、販売品目の多様化を推し進めないと生き残っていけない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「先の事はわからない」「構造不況は今より酷くなり、弱者の淘汰は急速に進むだろう。現在は買い手市場であるが、どこかで供給側が減り、売り手市場へと変わって行くだろう」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「ここ数年業界全般に明るい兆しはなく、企業間格差が広がっている。いつになったらこの現状から脱却できるのか不安である」「少しずつではあるが、需要が増加していきそうな気配はある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「7月中旬まで見通しは悪く8月以降少しずつ改善に向かう兆しがある」「自動車メーカーの不祥事の影響が今後どのようにマイナス方向に進むのか懸念である」「需要回復の気配は感じられるが、以前のような仕事量が確保できるかは不透明」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「記録的円安により海外は好調。ただし材料、消耗品は値上がるばかりで好転しない」「物流2024年問題からトラック需要は引き続き伸びていくと考えらる。原材料の高騰が今後も続き、価格転嫁が課題である」「円安により海外への仕事の流出は減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現状維持から若干の進捗が予想される」「海外への仕事の流出が抑えられている為、国内での仕事量が今後増加傾向になるとと思われる」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「5月1日から親会社が東芝キャリアから日本キャリアへと変わり、生産台数が大幅に減少している」「各種工場の人手不足もあり、省力化設備の需要は高まっているが、その需要に対して省力化設備を設計するエンジニアが不足している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「親会社の方向性が見えず、当面は在庫を絞った生産になるだろう」「省力化設備の市場は拡大していくだろう」とのコメントが寄せられた。

『電子機器』…「2024年4月の旅客自動車運送事業運輸規則（点呼記録・アルコール検知記録の保存期間等）が改正・施行により、売上は前年比115%となる。今後は同法改正による需要が落ち着き、好調だった販売も今後は前年並みの実績にとどまる見込みだろう」とのコメントが寄せられた。

『製材』…「5月中頃からちょっとずつ受注が回復してきている感がある。6月初めも同様、このまま回復してくれればありがたい」とのコメントが寄せられた。

『**衣料・繊維加工**』…「中国向け需要の減少、異常気象によるアパレル関連商品の不振により、全体的に生産・販売は低迷している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「年内は現状が続くと考えられる」「急激な円安により原材料等の値上げが懸念される。厳しい環境下でどのように収益力を確保していくのかが今後の課題だろう」とのコメントが寄せられた。

『**食品・飲料**』…「為替の影響による原材料価格の高騰に加え、物流費、人件費、エネルギーコストの高騰は続いており、値上げしても追いつかない状況。値上げした結果、売上はかろうじて維持できるが、販売数量は下落している。増収減益傾向である」「原材料価格の値上げが続いている。値上げした分売上高は多少増加したが、販売数量は減少している」「原材料の値上げに対し、販売価格をどこまで値上げするかが課題」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「この増収減益傾向は数年続くであろうと考えている」「値上げした商品については販売数量の減少が予測されるため、売上高の増加は期待できないと思われる」「為替の動向による」「静岡茶の危機的状況になってきた。このままだとお茶の産地静岡が無くなってしまう。茶農家の減少が深刻である」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「下請け会社で事業閉鎖する企業がある」「限られた人員で日々仕事をこなしているが、この限りある貴重な戦力をどの取引先に向けて使っていくのかが中小企業の死活を分けると考えている。現時点で戦力を投下したいと思える大手企業が富士市内に少ない事は非常に残念な事であり、富士市の未来が心配である」「取引先である大手企業の合併が目立っている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	15.8	55.3	28.9	▲13.1	上 昇
売上高	34.2	34.2	31.6	2.6	下 降
採 算	23.7	44.7	31.6	▲7.9	下 降

【建設業】 景気ムード…【低調】

『**総合建設**』…「各企業の設備投資が拡大している状況はあるものの、物価高騰の影響でその原価を建設費に反映できていない。また人材不足は深刻であり、工事管理が出来ず、受注等を圧迫し、売上高を伸ばす事が出来ないゼネコンが多数ある」「資機材・燃料の価格高騰の影響が続いている。特に、生コン・アスファルトは、高止まりもなく上がり続けている」「公共工事の受注競争が激しく、受注は困難である」「過当競争の状況に変わりはない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「今後も設備投資は増える見込みの為、人材確保及び受注計画を十分考えた企業が勝ち残るだろう」「仕入価格や労務費の高騰に対応できるのは、資金力の強い大手企業のみで、中小企業の淘汰が深刻になっていく」「民間工事高は減少傾向が続くだろう」「生産能力を落とさず、働き方改革に対応する為の効率化が急務である」とのコメントが寄せられた。

『**建設関連（資材・解体・建設車両等）**』…「建設資材は、仕入価格が今後も上がる事が容易に予想され、収益性が年々下がっている。利益率の高い製品やサービスの展開を早急に進めていく必要があると考える」「再生砕石の需要が低下しており、コンクリートガラ等の受入が困難になっている」「2024年問題（運送業、建設業も含めた時間外労働規制）により実質的に人件費コストが増加し、収益圧迫要因となっている。前年に比べ、建設需要は高まっているが、規模は一昨年並だろう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについ

ては、「建設資材の需要拡大は考えにくい。他社との差別化をどれだけ図れるかが鍵となるだろう」「再生砕石の需要低下とコンクリートガラ等の受入難は、今後常態化してくるだろう」「日本全体では相応の景況感と言われるが、需要が地域に偏在している。静岡県も同様に東部中部、特に中部地区での需要の高まりは見通せない」とのコメントが寄せられた。

『**一般住宅**』…「原材料の仕入れ価格の値上がりが続いている」「リフォームの問合せが増えているように感じる」「一昔前と比べて一戸あたりの人数が減ったのが要因と思われるが、平屋住宅が増えた」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「人材不足が懸念される」「物価上昇が落ち着いたら、戸建て注文に動き出す人が増えるだろう」「コロナが収まってきて動きは活発になってきた」とのコメントが寄せられた。

『**設備工事**』…「材料仕入れ価格の上昇で受注の減少が生じている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「過当競争と競争力の低下で、見通しは厳しい」「従業員の高齢化、若い人材の不足による事業の減少が続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『**造園土木**』…「人材不足は非常に深刻である」「今期は刈り込み、草刈り、剪定で忙しい」「公共工事の発注がない」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「三島駅南口の再開発が富士市にどのような影響を与えるのか注目したい」「山梨県側の富士登山規制で静岡県側が増加するとの話だ。夏の風物詩になりつつあるリュックを背負った登山者の方を応援する旗が、山開きと共に街中にたくさんなびいてほしい」「富士市の地域経済の活力が感じられない。行政とタイアップし、地元企業の活性化につながる施策をもっと打ち出す必要がある」「若手不在、資材高騰」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	12.5	70.8	16.7	▲4.2	横ばい
売上高	33.3	41.7	25.0	8.3	横ばい
採 算	12.5	58.3	29.2	▲16.7	横ばい

【卸 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『**機械器具**』…「新規設備投資による受注がほとんど無い為、売上増の見込みは薄い」「十分な仕事量を確保している顧客と苦戦している顧客との差が大きい。仕入メーカーからの値上り要請は増加傾向である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「状況は変わらない。新規商品開発等による売上増を検討していく」「労働力問題で省人機械やロボットの引き合いが増えるだろう」とのコメントが寄せられた。

『**自動車部品**』…「全般的に需要がやや落ち込んでいる。半導体の製造は追いついて来たが、自動車メーカーの製造過程に於ける不具合等の発覚から一部生産が止まり、メーカー出荷が減少しているので新車販売が遅れている。それにより引取り中古車市場が減り整備需要が落ち込んでいることや、物価高の為に車検時の交換部品の節約などが影響している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「自動車メーカーの生産停止部分が解除されれば需要は回復すると思われる。商品の値上がりは7月で落ち着くだろう」とのコメントが寄せられた。

『**金属部品**』…「多くの企業は、海外から資材・原材料等を調達しており、円安のマイナス影響を受けている。米国の利下げが二転三転しており、為替が円高に進まず様子を見ている為、投資が部分的に停滞している。機械を扱う業界はここ数年、緩いスロープで落ち

込み続けている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「急激な落ち込みではないため危機感が希薄である。これといった抜本的な対策（投資）が取りにくく、今後も落ち込みが続くと思われる」とのコメントが寄せられた。

『**建築材料**』…「住宅コストが高くなり住宅ローンが組めない方が増えている。神奈川、東京は不動産価格が高い水準で推移しているので、新築着工は増えない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「建設現場では職人を募集しているが、ほとんど問い合わせもない状況。どこも同じように人手不足に悩んでいるようだ」「2025年4月の建築基準法改正（4号特例縮小）により、新築着工は大幅に減少するだろう」とのコメントが寄せられた。

『**製紙原料**』…「紙加工業界では、廃業や差別化の遅れに対応できない会社が多く出てきた。メーカーによっては原材料の在庫減なのに生産過剰に陥る等、矛盾が生じている」「あらゆるランニングコストが上昇している中、上昇分を売上に転嫁できない状況にある。古紙回収量は減少している」「産業古紙の減少に歯止めがかからず、この先不安である。ペーパーレスで古紙の減少は続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「業界の多角化がますます加速化しており、来年の予測として格差は更に広がると予想している」「メーカーの生産調整で古紙の動きが左右されている。輸入もいまだ中国に左右される」とのコメントが寄せられた。

『**紙**』…「下請け業者の高齢化による人材不足」「デジタル化や別事業を模索している」とのコメントが寄せられた。

『**再生資源**』…「銅価格が最高値をつける。EV（電気自動車）や生成AIのデータセンターの建設により電線需要が増大し、円安、投機筋の流入により価格上昇し、スクラップ相場が上昇している。鉄スクラップ価格は下降中。輸出先の東南アジアが雨季に入り建設工事が停滞して需要が落ち込み、国内でも夏場の電力需要で生産を落とすので、スクラップ需要が弱い」「中国経済の低迷と中東情勢、ロシアウクライナ情勢の悪化がアジアの鉄スクラップ輸出市場への影響が出て、先行きが暗い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「銅・鉄ともスクラップ盗難が多い。電線ケーブル、金属製品の窃盗が昨年を大いに上回る。銅の窃盗は世界的に多発している」「国内市況も国内景気の回復が待たれる」とのコメントが寄せられた。

『**工業薬品**』…「製紙会社の稼働状況が好転しない為、需要が回復しない」「コロナ禍前の状況に追い付いてきたと思われる」「製紙関係は相変わらず低調。カード等のプラスチック材料の環境対応が進んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「当面は円安の影響で、仕入価格の上昇が続く」「見通しは立ちにくい状況である。とにかく物価が安定しないと厳しい状況である」「環境対応プラスチックの販売が順調だ」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「日本は老朽化した設備をベテラン（高齢者）の技術でカバーしているため少量生産しかできず、事業承継も難しい。海外では素人が最新鋭の設備で製作しているので、品質も数量も指導すれば対応できる。日本は良いものを作るかもしれないが、顧客ニーズに対応できないので、円安でも海外発注が増えている」「富士駅北口再開発の計画は具体的にどのような形で、どの程度進んでいるのだろうか。この再開発が富士市の未来に希望をもたらすものとなることを祈るばかりである。進捗状況の発信も私たちの関心をひくような形で積極的に行ってほしい」「来月の岳排停止期間では、長期休転する会社が例年より多い」「地区の工業が落ち込んでいる。製紙の低調の他、車の偽装問題の影響で下請工場が停止している」「世代交代が進みつつあり、廃業も含めて業界の再編成時代に突入する」「富士市は、地域活性化のスピードを上げる事をしなければ他地域に産業が移動する可能性が大きい。政界リーダーシップが楽しみである」「人手不足はどの業種も深刻」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	9.1	54.5	36.4	▲27.3	上昇
売上高	26.1	30.4	43.5	▲17.4	上昇
採算	8.7	52.2	39.1	▲30.4	上昇

〔小売業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『衣類』…「生産現場の高齢化が顕著である。流通在庫の減少等が続く。明るさは見えない」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「食料品の価格上昇により消費者の財布の紐が固くなっている。嗜好品にもその影響が出てきているように感じる」「米価が高騰している。価格転嫁が難しいので、粗利が減ってしまう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価上昇により販売価格の見直しが必要だが、タイミングや上げ幅など慎重に検討しなければならない」「新米が色々出てくるが、高値予想とされている。更なる値上げが必要だが、難しいと思う」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「インターネット接続テレビ、大型テレビの普及が進み、メーカーでも4Kテレビ等推進している。パリオリンピック、MLBオールスターゲーム、プロ野球セパ交流戦、大相撲等スポーツ観戦視聴に注目している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「家電はインターネット・スマホ等と連結して、より高度な技術展開が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…「必需品としての化粧品は堅調であるが、嗜好品・高級品としての高価格帯の化粧品への支出は少ないと感じる。コロナ禍を経て旅行の増加やイベントの活発化により、化粧品需要は回復してきている」「コロナの影響が長く続いた為、消費の下落はそのままの状態である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価の上昇に賃金の上昇が追いつかない限り、家計防衛のため消費者支出が上向くことは難しいのではないかと」「当分の間は現在と変わらないだろう」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「消費行動の変容によって、店売りの金額が減少していく」「生産者、需要ともに減少傾向は変わらない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「自店の強みを前面に出し、他店との差別化を今以上に意識することで、自店の存在価値を作り出していく。このような地道な努力をひたすら続けていかないと立ち行かなくなる」「資材高騰による利益圧迫は今後も続いていく。イベントや催事など花にかける予算が少なくなっている」とのコメントが寄せられた。

『飲料品・食品』…「生活習慣の流れの中で、リーフ茶でお茶を飲む機会が減り、全体として厳しい状況である」「生産面での販売価格が下がり続けている。仕入れし易い状況だが、需要が低下している現状から過剰在庫にならないよう買い控えが続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「更なる工夫で需要を増加させる努力が必要。業界全体の需要喚起もいいが、個々の魅力をさらに発信し、インバウンドを活用することが効果的だと思う」とのコメントが寄せられた。

『医薬品』…「本年6月より調剤報酬の改定が行われ、調剤薬局にとっては厳しい内容だと思われる。DX化も求められ、その波についていくのも大変だと感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「本年12月に保険証がマイナ保険証に切り替えられるが、その際には混乱が起きるのではないかと」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「商品価格の高騰は少し落ち着いてきたが、まだまだ価格の値上げは続いている。価格高騰により、需要が落ちてきているので、海外ブランド等は日本市場からの撤退などの動きも出てきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「商品のほとんどが輸入に頼っているため、円安が収まらない限り厳しい状況は続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「観光需要に期待したいが、集客のある観光地も少なく、(富士山はあっても富士市に滞留する事がない) 残念である。大型客船の田子の浦寄港は無理だろうか。清水は客船により潤っているようだ」「毎月、若い年代のグループが県外から来店する。理由は、ハンバーグチェーン店の待ち時間を利用して立ち寄られる」「吉原祇園祭が6月8日・9日の二日間で行われた。今年は商店街本町通りの交通規制が2日共2時間前倒しになり、毛槍や警察音楽隊パレード等の昼の行事も例年より多く行われ、集客に創意工夫が感じられた。そのため多くの人出で溢れていた」「人口減少による消費の減少が少しずつ売りに影響が出始めている感がある」「夏の暑さが例年を上回る予測があり、高齢のお客様の健康状態が心配になる。お客様が買い物できる足の整備をしていかないと商店街の維持が出来なくなる」「家族葬ホールが次々と建てられている一方、イベントや催事、会合などに使われるホールや建物は少ない」「7月10日に吉原商店街に新たなゲストハウス“アーケードホテル”がオープンする。話題の富士山夢の大橋から誘客ができれば、今後の商店街の方向性を変える可能性も秘めているのではと大いに期待している」「駅北再開発がまもなく始まろうとしている。実際に古い駅前のビルが解体され更地になることで、近隣住民や商業者に新しい駅前への夢や希望が芽生えてくるのではないかと期待したい」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	10.0	60.0	30.0	▲20.0	上昇
売上高	20.0	45.0	35.0	▲15.0	上昇
採算	10.0	55.0	35.0	▲25.0	上昇

【サービス業】 景気ムード…【低調】

『飲食』…「食材の値上げの影響が非常に大きく、原価率を押し上げている」「客は戻ってきているが、平日はコロナ前の水準には戻っていない」「ゴールデンウィークは以前のような盛り上がりはなかった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「インフレがいつまで続くかによってだが、消費が冷え込む事によって飲食業は一番影響を受けやすくなってしまおう」「再開発地域の店舗が退去する中、賑わいをどこまで保てるか。再開発の工事に何年要するかも不安ではある」「会社関係の大人数での宴会は減り、実質給与が上がり、消費者は儉約傾向で飲食店離れは続いている。円安が続くと一般的な家庭の消費は儉約傾向になる」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「旅行の回復、インバウンドに伴い需要はかなり増えているが、あらゆる物価が高騰し、思うような利益が出ないのが実情である。人件費に圧迫される恐れもある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「このまま物価高騰が続くと、消費者の財布の紐が固くなり、外食から出費を抑えるだろう。物価だけでなく、賃金も同時に上がっていかないと厳しい状況に追い込まれる」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「ペーパーレスが進み、荷主企業の紙の生産が減少傾向である。幸いにも運賃値上げは果たしたものの、輸送量の減少が不安である」とのコメントが寄せられた。

今後の見通しとしては、「トラックドライバーの 2024 年問題の影響もあり、先行きは不明である」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「業界の仕事量は増加しており、この傾向は変わらずと考える。人材に関しても徐々に確保できており、仕事量を増やす事が可能となっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「仕事に関しては、量は確保できているので問題はないが、単価を上げられないのが現状である。単価を上げる事で給与を上げる事が出来れば良いと考えている」とのコメントが寄せられた。

『求人広告』…「求人需要は増加傾向。人材不足の為、採用難が継続する。求人商品単価は低下している為、売上増には反映されていない。この傾向はしばらく続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『広告サービス』…「楽観できる材料がない」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…「過当競争が続いている」「経営者の高齢化により、後継者不在の会社では先行き不安の状況が続いている。また、経営者の高齢化だけでなく、時代の環境変化についていけない会社では、解散・廃業が多くなっている」「定額減税は事務作業が煩雑となり、迷惑極まりない」「人材不足が顕著になり、賃上げ出来ない会社には人材が来なくなっている」「福祉業界の大幅な法改正があり、福祉関連の業務を請けている同業者は売上比率が伸びている。ただし業務量が多く、数をこなせないため売上増に直結しているわけでもないようだ」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「今後、物流問題をはじめ、更なる価格上昇が見込まれ、採算が悪化する恐れがある。経営努力がされない限り、人材不足もますます進み、自然淘汰される恐れがある。また、後継者不在の事業者は真剣に M&A について検討せざるを得ない状況になってきた」「中小企業は賃上げできるような高付加価値サービスをやっていないと厳しくなる」「申請や各種手続のオンライン化は引き続き進んでいる。行政書士の仕事なくなるのではないかと懸念されたが、オンライン化に順応できない顧客に代わり手続を行う業務が多くなるため、行政書士が DX 化に対応していけることが望まれる」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「貸切バス料金の見直し告示が示され、販売価格が上がった事で何とか前向きに遂行しつつある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「人材の確保はまだまだ大きな課題である」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』…「各社店舗が増えて過当競争となっている。」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「宅地造成分譲販売を行っているが、仕入用の購入地が減っていて苦慮している」「空き地や空き家の処分依頼は相変わらず多い。農地は専業農家の後継不足もあり、引き取り手が悪い。空き家は需要が少なく更地として求めるケースもあり、取壊し費用もかかることから商談は進みにくい」「好況のように見える土地や中古住宅だが、思ったより売れていない。相続税対策などで土地や中古住宅が増えて供給過剰だと感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「居住用財産の処分については、建物を取り壊すことが条件で税法上の特例が認められるが、所有者の負担が増え空き家のままのケースも増えるだろう」「良い土地は売れるが北向きや旗竿、細い道路に面していると売却が困難である」とのコメントが寄せられた。

『旅館・ホテル』…「スポーツ業界の人流は活発化している。コロナ禍の緊縮から開放されている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「スポーツの大会や各種イベントの活発化、自社イベントによる県外からの合宿誘致、同業他社の廃業などから、需要増が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

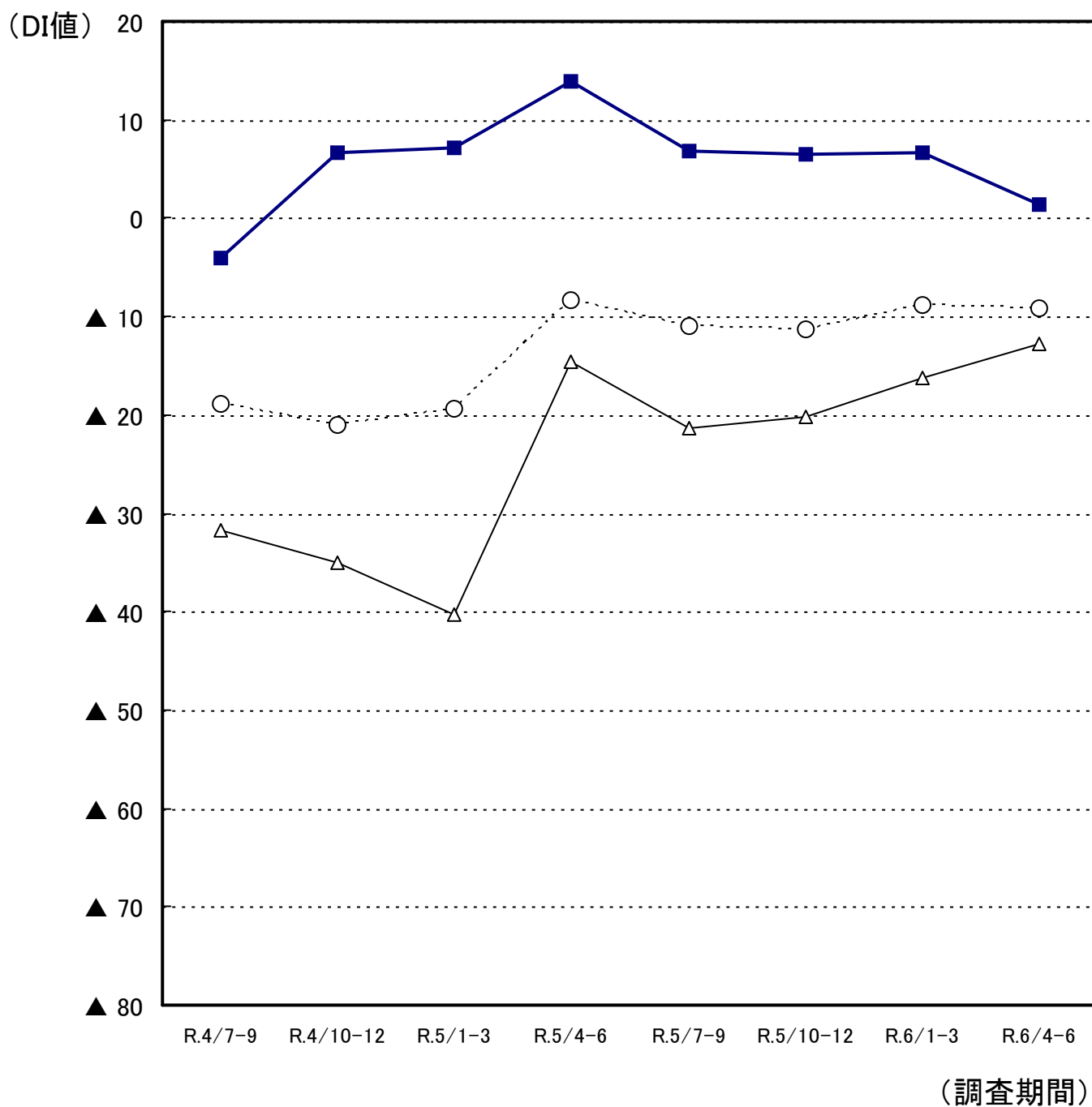
『その他』…「富士山夢の大橋の行政の対応がとても遅かったと思う。キッチンカー出店を特別に許可したりできないのだろうか」「製紙業の盛んな富士市において、ペーパーレスの影響は大きく、近年、倒産、廃業する運送業者が増えている」「インバウンドは SNS が情報発信源となっており、外国人が市内を歩いている姿を見かける。それを何かにつなげられればと思う」「更地が目立ってきている」「富士は都内にも近いので、上手くやれば労働

人口、総人口は増える地域だと思う」「工業用地の売買仲介が増えてきた」「少子高齢化が進んでいる。中学校の統廃合などにより、まちづくりに元気さがない。地域内での危機感は薄いですが、この問題についてまちづくり協議会などで踏み込んで話し合うべきと感じている」「富士川かりがね橋が開通して3か月たち、交通量も安定してきた頃だと思う。市や県が交通量調査を実施しているので結果が楽しみだ。相変わらず渋滞の苦情はあるので、対策が必要である」「富士市の体育館の利用開始が2025年4月となっていることから、こちらの稼働状況に期待する」とのコメントが寄せられた。

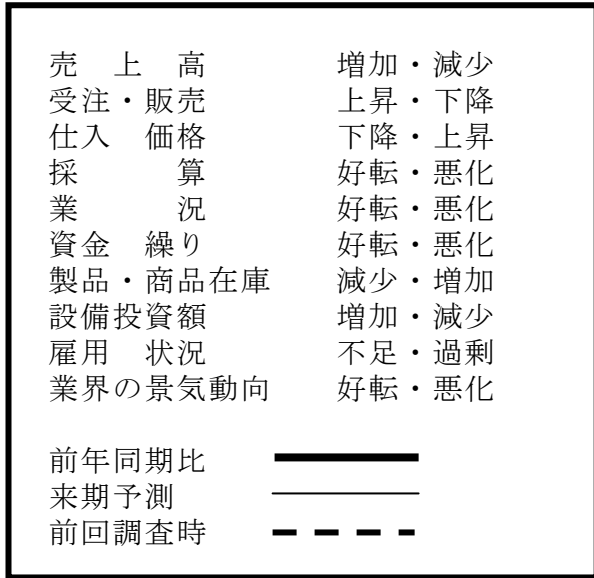
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	28.6	57.1	14.3	14.3	下 降
売上高	37.9	44.8	17.2	20.7	上 昇
採 算	32.1	42.9	25.0	7.1	下 降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

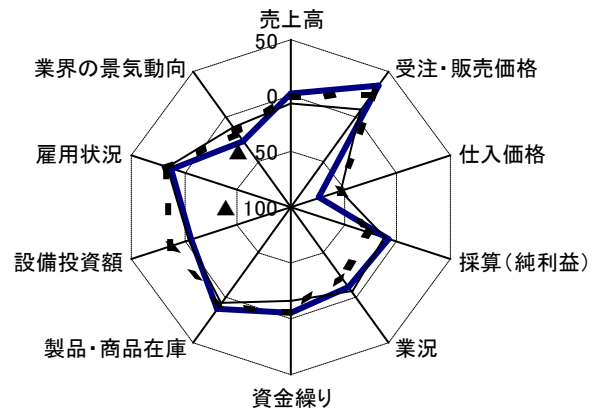
■ 売上 ○ 業況 △ 採算



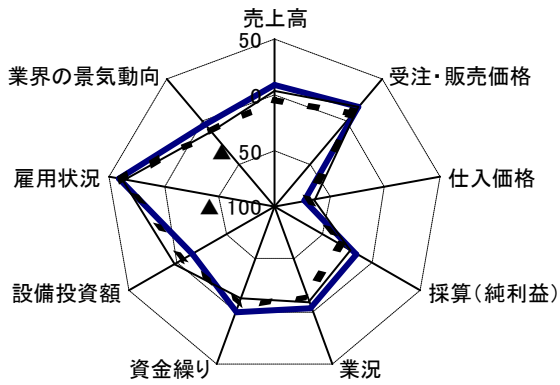
レーダーチャート



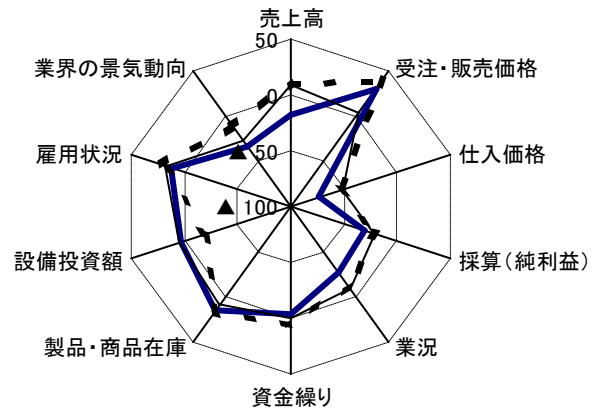
【製造業】



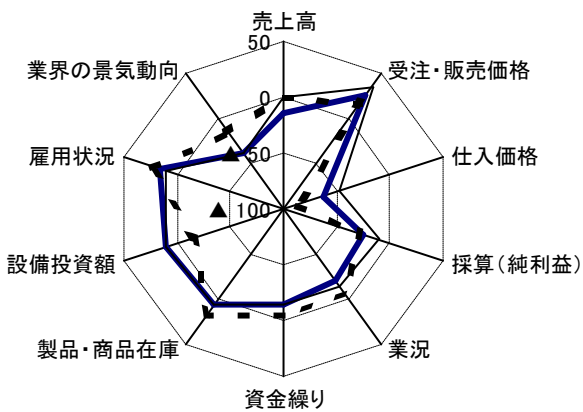
【建設業】



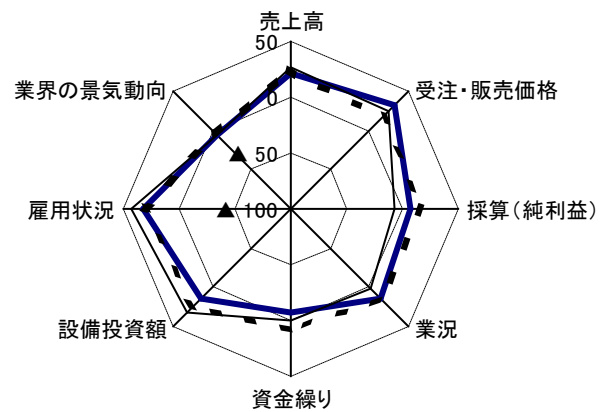
【卸売業】



【小売業】



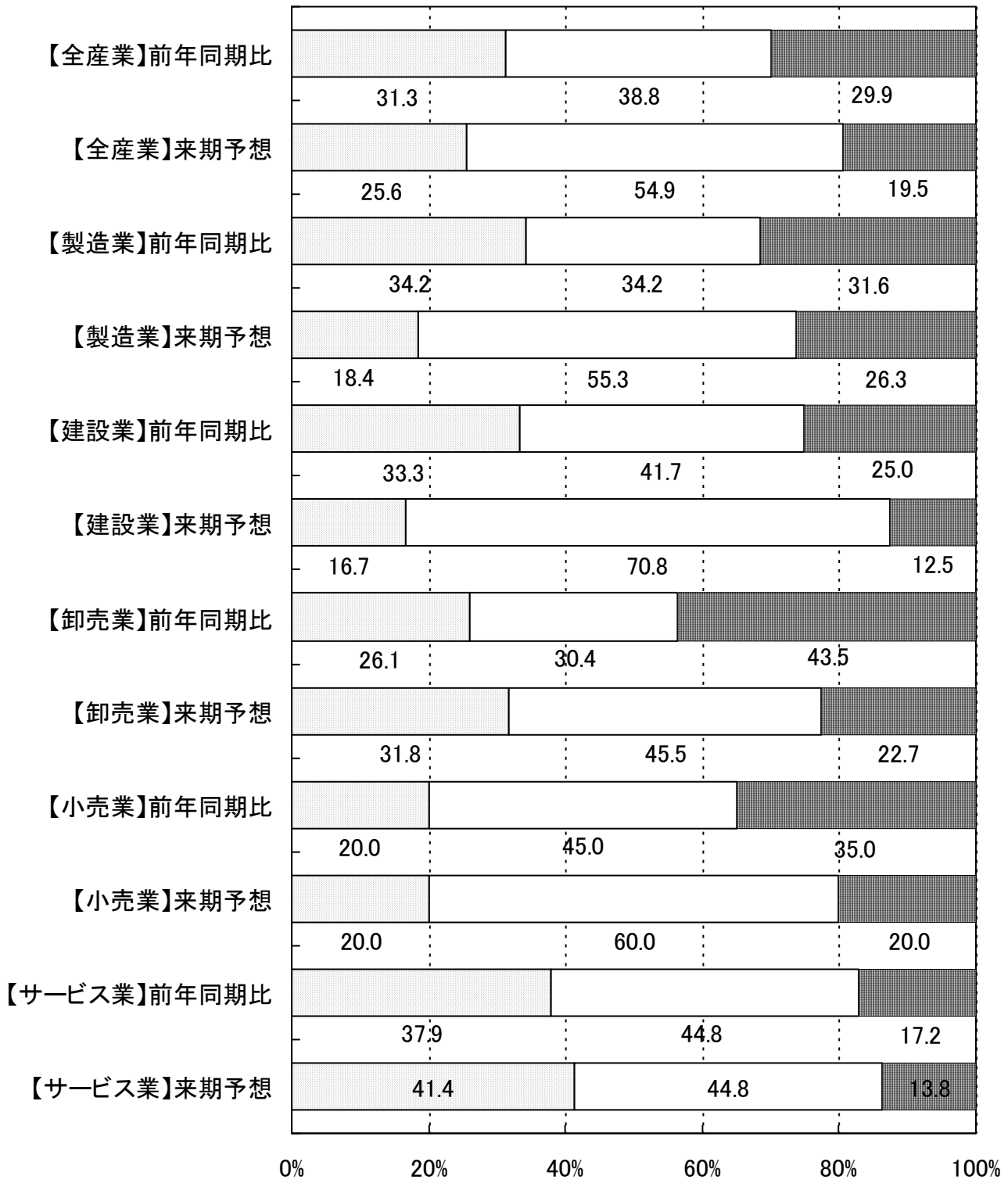
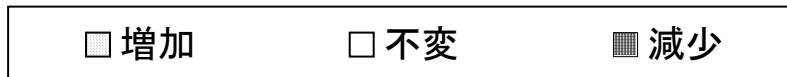
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 人材不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
建設業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 人員不足</p>
卸売業	<p>1 位 人件費高騰／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 その他の需要の低迷</p> <p>その他 販売価格値上げ難／売上減に伴う利益減／設備老朽化</p>
小売業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人件費高騰</p> <p>3 位 その他の需要の低迷／売上減に伴う利益減</p> <p>その他 販売価格値上げ難／売上、利益減による資金圧迫</p>
サービス業	<p>1 位 販売価格値上げ難／人件費高騰／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人員不足／人材不足</p> <p>3 位 設備老朽化</p> <p>その他 その他の需要の低迷／その他の経費増大</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2024年6月17日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（経済面）県内の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に増加している。個人消費は緩やかに回復している。住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を下回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース）は、前月比上昇している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 緩やかに回復している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。コンビニエンスストア販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア販売額は、増加している。家電販売額は弱めの動きとなっている。新車登録台数・販売台数は、持ち直しが一服している。旅館・ホテルの宿泊数は、人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：24/4月▲3.7 → 24/5月18.1%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 製造業を中心に増加している。

（短観・設備投資額：23年度計画10.1% → 24度計画9.8%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。

（新設住宅着工戸数前年比：24/3月▲3.5% → 24/4月2.2%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（輸出額前年比：24/3月▲4.1% → 24/4月0.4% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：24/2月7.3%→3月
▲4.8%<速報値>)

自動車・同部品は横ばい圏内の動きとなっている。二輪車・同部品は横ばい圏内の動きとなっている。食料品は横ばい圏内の動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は横ばい圏内の動きとなっている。化学は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は弱めの動きとなっている。紙・パルプは持ち直しの動きが足踏みしている。楽器は横ばい圏内の動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：24/3月1.18倍→24/4月1.15倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比24/3月2.2%→24/4月2.1%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(24/5月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(22件<前年比：29.4%>
負債総額(104億円<同：200.1%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：24/3月末+1.2%→24/4月末+0.9%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：24/3月末▲0.3%→24/4月末▲1.1%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比上昇している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：24/3月1.256%→24/4月1.262%)

以 上